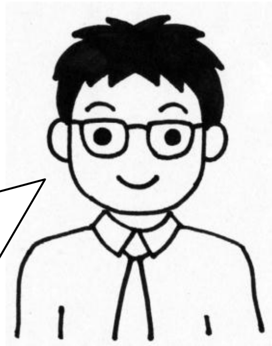
(((伝建群だより)))

編集・発行　桐生市総合政策部伝建群推進室推進係
Tel 0277－46－1111（内線346, 639）
Fax 0277－43－1001
E-mail denkengun@city.kiryu.gunma.jp

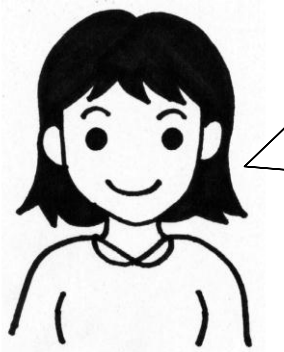
平成23年12月 1日発行 冬号 No.13

桐生市伝建地区保存審議会にて、『 保存計画 』が了承されました。

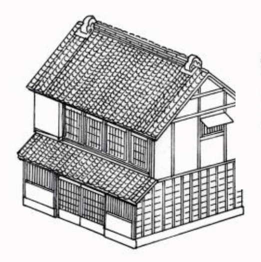
１０月２６日（水）午後１時３０分より、正庁（市議会議事堂）において、桐生市伝統的建造物群保存地区保存審議会が開催されました。
本町一、二丁目及び天満宮地区の保存計画（案）の内容が審議され、了承されました。



桐生市都市計画議会にて、『 伝建地区の決定 』が了承されました。



１１月７日（月）午前１０時より、６０５会議室（市役所）において、桐生市都市計画審議会が開催されました。
本町一、二丁目及び天満宮地区の伝建地区の決定とそれに伴う都市計画道路（本町線、稲荷橋線）の変更、用途地域の変更が審議され、了承されました。



今後の予定 （状況により多少前後する場合があります。）

１２月	1月	1月		2月	4月	5月	7月
群馬県 都市計画審議会	伝建地区 決定告示	保存計画 決定告示	伝建地区が決定した後、文化庁へ重伝建地区選定の申出を行います。	重伝建地区 選定申出	国の文化審議会 重伝建地区 選定諮問	重伝建地区 選定答申	重伝建地区 選定告示

～伝建群を目指して～　伝統と創造　粋なまち　桐生

お知らせ

●伝建地区の決定告示の日以後、建物や工作物などを新築や増築する場合には、事前に許可が必要になります。

●伝統的建造物の修理、伝統的建造物以外の建造物を修景するために、補助金を必要とする人は、早めにご相談ください。
（※修理については、修理希望者の中から、老朽度合いの状況など、緊急性の高い物件から順次行う予定です。）

●伝建地区の決定告示の日以後、修理及び修景の希望者を募る予定です。

■全国の伝建地区の紹介　～全国91箇所（3箇所追加）～　H23．6．20選定

◆南会津町前沢地区（福島県）

南会津町は、福島県南会津郡の最南に位置し、前沢は町南端に立地する山村集落で、近世初期には成立していたとされ、江戸時代には、南山御蔵入地と呼ばれる天領に属していた。明治４０年の大火で、家屋のほとんどが焼失したが、この大火後、数年のうちに復興されたのが現在の集落である。伝統的な主屋は茅葺で、中門造若しくは直屋である。中門造の主屋は軒高を高くし、壁面は柱や梁、束、密に通した貫を化粧とし、華やかな木組を見せるのが特徴で、直屋も同様の特徴を示す。明治末期から昭和前期に建てられた中門造と直屋の茅葺民家が混在して建ち、これらの建築群が周辺の耕地、山林、河川等と共に、会津地方南部の雪深い山間部に独特な農村集落の歴史的風致を形成している。

前沢の中門造

◆豊田市足助地区（愛知県）

豊田市は愛知県の三河地方西北部に位置し、足助は尾張、三河と南信濃を結ぶ伊那街道の道筋に当たり、古くから海と山を結ぶ物資の中継点として重要な位置を占めた。室町時代後期に現在の足助市街地を見下ろす真弓山に足助城が築かれ、この頃に原形となる町場が形成されたとみられる。江戸時代の足助は、複雑に折れ曲がる伊那街道に沿って町があり、北側の山麓に社寺や陣屋が立地していた。街道沿いの商家町として発展し、近代になっても地域の中心として栄えた。町家は、ほとんどが安永の大火以降のもので、江戸時代のものが多く残る。江戸時代以来の重厚な町家を多く残し、平入と妻入の入り交じる街道沿いと、離れ座敷の建ち並ぶ川沿いに変化に富んだ景観を残す。物資の流通によって近世から近代にかけて栄え山間部に成立した商家町の姿を良く伝えている。

足助川沿いの町並み

◆萩市佐々並市地区（山口県）

萩市は山口県北部、日本海側に位置する。佐々並市の集落は、中国山地の山間を流れる佐々並川の南北両岸に広がる。慶長９年、萩へ入城した毛利輝元は、萩と瀬戸内海側の三田尻を結ぶ萩往還（街道）を整備した。佐々並市はこの時設置された宿駅の一つで、慶長年中には藩主が休泊する御茶屋を起点に町並みが成立していたとみられる。江戸時代の佐々並市は、往還沿いに茅葺の主屋が建ち並び、周辺には田畑が広がっていた。町並みには御茶屋とともに、上級藩士などが宿泊する御客屋や人馬継立てを行う目代所があり、江戸時代を通じて、萩藩の宿場町として維持された。近世前期に御茶屋を起点として成立した町割が良く残り、往還沿いに混在して残る茅葺や桟瓦葺の主屋が周囲の棚田等と一体となって、萩藩の主要街道であった萩往還の宿場町としての歴史的風致を今日に良く伝えている。

佐々並市の町並み